



みずべ Mizube

Vol.30



旧中川 川の駅一周年 リバーフェスタ江東

リバーフェスタ江東1周年記念イベント 参加レポート

セーリングインストラクター 村橋 俊之

2014年3月15日16日、リバーフェスタ江東「旧中川・川の駅」1周年記念イベントにアクセスディンギー(小型帆走ディンギー)のインストラクターとして参加させて頂きました。2日間ともよく晴れ、多くの笑顔に出会えた楽しい2日間でした。

来場された方々、開催に携わったスタッフの方々も本当に心から水辺の環境を愛しておいでで、春の日差しと川辺の清々しい風とを十分に満喫されていたらっしゃいました。

江東区は大都市に在りながら、自然の残る水辺の環境をととてもよく整備し、かつそれを眺めるだけでなく一歩進んで人々の営みに積極的に活用しようと官民一体となって意欲的に取り組んでいて、非常に人を大切にする文化的な区なのだと思います。

河川敷の利点を「広い場所」と捉え、スポーツ選手たちの集うグラウンドとして開放したり、サイクリングコースとして利用している場所は他にも多くありますが、江東区の「川の駅」のように「一般市民が水辺を楽しむ」事を目的に、きちんと整備・管理されている場所はあまり記憶に在りません。年齢にかかわらず多くの住民が散歩、散策を楽しんだり、カヌー、セーリングのように欧米ではあたりまえの文化ですが、日本ではまだまだ環境が整備されていないものも、ここでは「水辺を楽しむ文化」と

してきちんと認識され、具体にかつ有効的に活用されていることは大変な驚きです。

大都市の中でその利便性を感じながら、水辺の豊かな環境がかつて日本のどこにでも存在した子供達の生き生きとした笑顔を再生し、やがて青年となった子供たちが水上をカヌーやヨットで風とともに走り回り、年を重ね次世代の子供の笑顔を眺めながら静かに川辺を散策する。「川の駅」が内包する潜在力は、近年その価値が見直された「里山」のそれと同じく、人の営みの原点回帰に、大きく寄与するものと確信致します。

「健やかに過ごし健やかに育つ」人としてあたりまえのものを手に入れにくい時代です。桜舞う都会の水面を伝統の和船が往来し、同じ水面を白い帆のヨットが走る。オリンピックに向け世界中から訪れる人々の目にも、新旧文化の融合と、人を中心に置こうとするこの豊かな市政の発想は、欧米の価値観にも通じる世界視野の素晴らしいものと映ることでありましょう。

私共のセーリング体験イベントでは、2日間、約130組の方々には風と水面を楽しんで頂くことができました。「世界で一番楽しかった!」と言ってくれた男の子。「マンションの上から見ていて、綺麗で楽しそうだったから乗せてもらいに降りて来た」と語ってくださった年配の男性の笑顔が忘れられません。

今回、このような記念すべき祭典に参加させて頂けた事、セーリングという新しい試みを快く受け入れてくださったスタッフの皆様のおかげに感謝致します。今後、第二、第三の「川の駅」が生まれ、子供達の笑顔があふれ、人々の人生に寄り添う豊かな水辺へとさらなる発展をとげますよう、心より望みます。

25年度

リバーツアーの特色

リバーガイド 高田 光

25年度のリバーツアーは小名木川の護岸工事(兩岸の遊歩道整備)のため、年度内は小名木川を通過できない企画となった。

小名木川を通過できない中で、荒川ロックゲートから荒川経由で砂町運河等の内陸運河と東京港へと、発展するベイエリアの紹介にポイントを変えた。結果としては、船からのゲートブリッジや富士山の眺望等、お客様にはすこぶる好評なものとなった。また途中から2020年のオリンピック招致が決まり、運航コースが同時に競技場コース(予定)にもなりガイドの勉強の弾みになった年でもあった。小浪先生からはガイド用英会話の初歩も教わり準備は怠りないことも付け加えたい。

*写真は東大島文化センターさんの提供による。



デッキから見るゲートブリッジ



東京港からスカイツリー

お知らせ

◇7月21日(月・祝) 13:00~16:30 第13回 明治丸シンポジウム

場所: 東京海洋大学越中島キャンパス 越中島会館 2階 講堂

現在東京海洋大学に3本マストを屹立させながら静かに佇んでいる明治丸。明治丸は明治の初め、英国の造船所で建造され、日本に回航されてきました。燈台巡回船として活躍しただけでなく、小笠原諸島が日本の領土であるのも、明治丸の働きがあってこそのこと。また明治天皇が東北・北海道をご巡幸の際にご乗船になられました。

しかし、明治丸は長い間に傷みが著しく、大学と地域及び行政の協力による保存運動が実を結び、明治丸は現在修復中です。明治丸がある江東臨海地区は、2020年東京オリンピック・パラリンピックにむけて大きく変わろうとしています。第13回を迎えた今年のシンポジウムは、変化し発展するまちの将来を見据えて、明治丸とその周辺のまちづくりについて皆さまと一緒に考えたいと思います。平成27年には仮囲いが外されます。修復が終わり美しく蘇る明治丸をまちの宝としてどのように活用していくかを考えます。(明治丸シンポジウムチラシより転載)

13:15 基調講演 I 「東京下町の重層性」 三浦 展(カルチャースタディーズ研究所代表取締役)

基調講演 II 「深川・江東・隅田川一町と建築」 米山 勇(東京都江戸東京博物館研究員)

15:00 パネルディスカッション「明治丸とまちづくり」

◇7月27日(日) 14:00~16:00 水彩サロン

「江東区の川と運河一成り立ちとこれから」佐藤哲章(江東区副区長)

水運、治水、埋立て、親水、その時代とともに、さまざまに利用されてきた江東区の川と運河。今後のまちづくりと河川、運河の活用、風景としての水系を考える。

◇9月28日(日) 第15回水彩フェスティバル

今年も小名木川クローバー橋と旧中川・川の駅の2つの会場で開催します。和船の乗船体験や模擬店、園児が作ったキャンダルによるキャンダルナイトなど盛りだくさん。水彩都市アピール実行委員会一同お待ちしております。



昨年度も皆様のご協力で多くの事業を行うことができました。ありがとうございました。

主な事業の記録を以下に掲載しました。今後ともご協力よろしくお願いいたします。



春, 夏

Spring
Summer

3月29日(土)～4月20日(日) 第9回「お江戸深川さくらまつり」

深川の春の恒例行事となった「お江戸深川さくらまつり」も9回目。2013年は平年より10日早く桜が開花し、初日を迎えた頃には既に花が散り始めている中での開催となりました。当会では花見船の運営、餅つき、石島橋での模擬店、リバーガイド、舟運の問合せ電話対応などで協力。しかし不安定な天候に見舞われイベント自体が中止となった日もあり、桜も早々に散ってしまった事から例年よりは少し寂しい状況での開催となりました。(中山善光)



和船乗船体験

4月13日(土) 第9回「東京を守る堤防体験ツアー」

2013年04月13日土曜日に37名が参加し実施された。晴天に恵まれ、08時30分に江東区役所を出発、10時30分に生井さくらまつり会場に到着、堤防決壊箇所でもカスリーン台風の時の様子を米田博さんから聞き、利根川上流河川事務所から遊水地の説明を受け、屋敷、江東区の小学生が作った連風揚げなどを白鷗大学と東京海洋大学の学生が行なった。一番よく上がったのは清水さんの奥様だった。

そのあと、13時40分に渡良瀬遊水地日谷中村、14時50分に新川通防災ステーション、16時15分に権現堂調節池につき、それぞれ説明を受けたり、堤防の草刈りを体験したりして楽しんだ。道の駅思川では特産品や野菜も沢山買うことができ、バスの中では、藤原隆さんによるカスリーン台風の話や、えどがわ環境財団土屋信行さんによる興味深いお話もあった。バスは18時00分に錦糸町駅、18時30分に江東区役所に到着し、解散した。(庄司邦昭)



米田博さんの説明

5月19日(日) 「水彩サロン春学期①」

春学期は防災関係、秋学期は山から海までの水の流れについて、合計6回勉強しました。舟運による防災は、防災というよりも災害後の救援が中心になりますが、水辺が多い江東区においては大切なことだと分かりました。

秋学期には山での間伐が大切なこと、埋立てや護岸の作り方が治水と環境にどのように影響するかなど、幅広く勉強しました。講師各位と参加者の皆様、ありがとうございました。(小浪博英)

6月9日(日)「小名木川リバーツアー-湾岸編」

6月16日(日)「水彩サロン春学期②」

6月29日(土)「CIGレベルアップ講習」

7月6日(土)「小名木川リバーツアー-豊洲編」

7月15日(月・祝) 第12回「明治丸シンポジウム」

第12回明治丸シンポジウムは蘇る明治丸と題し、東京海洋大学越中島キャンパスにおいて、開催された。基調講演として博物館明治村村長の鈴木博之先生から「明治という文化 動くものの保存」についての講演をいただいた。

明治丸の改修工事が始まりました。再度見学したいと思っていたカティーサーク昨年9月、パリでの国際会議の帰路ロンドンに立ち寄り実現しました。カティーサークは2007年火災で焼失し、その改修工事には巨額の8,100万ドル(約81億円)費やされ2012年4月完成公開されています。

グリニッチの機橋を降り立つ全ての人の目を引きつける美しい堂々としたカティーサークは、英国の19世紀の植民地統治時代と海事の優勢を象徴する帆船、その修復は素晴らしい驚きばかりでした。

カティーサークを見学し、明治丸の保存について思うことは、教育資源のみならず観光資源として保存することの重要性を感じました。(藤原治郎)



修復したカティーサーク

7月28日(日)「水彩サロン春学期③」

秋, 冬

Autumn
Winter

9月6日(金) 「CIG講習会」

2014年にCIGが3年目に入りました。江東区を緑いっぱいにするという、「City in the green」(略してCIG)をキャッチフレーズに、平成24年から始まった江東区の重点施策です。特定非営利活動法人江東区の水辺に親しみ会も参加しています。8年前に内閣府の都市再生モデル調査で、水と緑のネットワークを構築することで防災上も安全な街をつくらんと考え実態調査を行いました。河川や運河の緑が建物の緑とつながることで美しく安全な環境の江東区を作りたいとベランダ緑化の部門に参加しました。初年度はまずベランダ緑化の普及を、次年度はマンション単位のベランダ緑化への取り組みの支援を行いました。

3年目の今年は継続を意欲しての栽培技術のレベルアップ講習とコミュニティの支援と、テーマを年々増やしながら続けてきています。新しく参加するマンションには花苗と栽培キットも提供しています。水辺の会の会員の皆さんのマンションでも、マンション内の友だちを誘って参加して欲しいと考えています。(須永椒子)



CIG講習会

9月27日(金)「CIG講習会」

9月29日(日)「小名木川リバーツアー-特別編」

9月29日(日) 第14回「水彩フェスティバル」

「クローバー橋」と「旧中川・川の駅」の2つの会場で開催された第14回水彩フェスティバルは両会場とも盛況で、船や水辺に対する地域の方々の関心の高さを感じました。毎年「東京を守る堤防体験ツアー」でお世話になっている小山市の皆さんが地元特産のお米や野菜を持ってきて下さり、その販売も好評でした。夜になって旧中川・川の駅会場では園児たちが作ったキャンダルに火が灯され、たくさんの子供たちが遊びに来てくれました。(二嶋洋太)



小山市の産直品販売

10月12日(土)～10月13日(日) 「全国まちづくりカレッジ」

明治学院大学服部ゼミでは、2013年10月12日(土)・13日(日)の2日間にわたり「全国まちづくりカレッジin東京」を江東区大島周辺にて開催しました。この催しでは、全国からまちづくりに関する活動を行っている大学生が集まり、地域とともにまちづくりを考えることを目的とし、全6コースの街歩きやワークショップを行いました。成果として、街歩きを通して発見した資源や改善点などを可視化した「大島地域資源発見マップ」を作成しました。(和智雄貴)



全国まちづくりカレッジin東京

10月20日(日)「水彩サロン秋学期①」

10月27日(日)「CIG講習会」

10月29日(火)「CIG講習会」

11月4日(月)「CIG講習会」

11月17日(日)「水彩サロン秋学期②」

12月8日(日)「水彩サロン秋学期③」

12月9日(日)「運河ルネッサンス」

1月12日(土)～14日(月)「江東シネマフェスティバル」

3月15日(土) 3月16日(日) 川の駅1周年「リバーフェスタ江東」

川の駅、1周年記念として川の駅にてリバーフェスタが催されました。水辺の会としては実行委員会の中心としての参加となりました。当日は、和船、デンギー、もちろんダックも通常運行しています。陸上では、数多くのテントで、近隣の町会、企業、NPOのお好み焼きをはじめ、多くの物産の販売が行われました。物産の販売だけでなく、水の中の生き物の展示や、特設ステージでの歌や、踊りも披露されました。

当日は、ダックのお客様だけでなく、近隣からも数多くのかたが訪れ、和船の乗車、デンギーの体験乗船も、行列が出来て居ました。各テントも、大盛況が続き、屋過ぎには販売終了の店が繰出していました。東大島に定着した施設に、川の駅もなってきました。これからも東大島に定着した施設として大きく育てたいと感じました。(加藤隆夫)

3月16日(日)「小名木川リバーツアー-特別編」